

米を通して人・自然・夢が交わり幸せを追求する。
数字や金額では表せない喜びを求めて、「Yes米ニケーション！」

ライスボードのポズニンプ米ニケーション

(株)ライスボード 新潟総務部長・米ニケーター 豊永 有

●食糧庁の書類申請に泣く

新食糧法では輸出・輸入の自由が法律で明文化された。農林水産大臣の許可を受ければ誰でも輸出できるのだ。しかし、最初は許可がなかなか下りなかった。フランス・オーストラリアに送るコンテナ積み出しの日は迫っているのに許可がない。

電話で食糧庁の担当者に催促しても、「計画外米の申請をしているか」と、逆に質問をされてしまった。ライスボードは生産者の集まりだから、輸出する米が計画外の申請をしているかどうか分かる。しかし、消費者や商社が町で買った米を輸出しようとしたらどうするのだろう。計画外の届け出まで調べてお伺いを立てなければいけないのだろうか。

電話ではラチがあかないので東京の食糧庁に直談判をしに上京した。その時に担当者の口から出た言葉は忘れられない。「需給バランスを見て輸出を禁止することも考えられる」

一昨年の米パニックの時ならいざ知らず、300万tの在庫を抱える国の食糧を担う方

としては何とも優雅なご意見だ。国の在庫を減らすため、輸出は褒められ助けられるのならば分る。しかし、書類申請受理が遅れて船便に間に合わなかったらどうするのだろうか。開いた口がふさがらなかった。

遅まきながら許可が下り船便に間に合い、めでたしめでたし。その後、毎月フランスに輸出している米については、滞りなく許可が下りるようになった。食糧庁にしても輸出は初めての仕事なので致し方がなかったのかも。しれない。

●500kgを空輸する

アメリカへの輸出は8月末の土曜・日曜の2日間のイベントがメインだ。だから、米が遅れることは許されない。思いつきりコストがかかるが空輸することにした。しかし、この時点で食糧庁の許可が下りていなかった。

許可なしの場合は、アメリカへ行くメンバーが一人100kgを自家消費用の食糧ということにして、無理やり持ち込もうとしていた。100kgプラス個人の荷物と必要機材。「ポーターを雇わなければ」と笑いあっていたが、目だけは誰も笑っていないかった。会議をする

度に「おまえが無謀な企画を立てるからこんな目に遭うんだ」と、メンバーの心の声が聞こえて来る思いだった。

4人で400kgになるから、うまくロスアンジェルス空港に降り立ってもタクシーでは運べない。台車が必要だ。「米を運ぶのに台車を貸してください」と、英語で何とか言うかでもめてしまった。

7月の末に許可が下りたので無謀な計画は中止をして、事前に空輸貨物で送ることができるようになった。「愛しいお米たちよ、一足先にアメリカへ飛び立っておくれ、すぐに追いかけるから」と軽やかな気分であられたのも一瞬だけだった。

●栄養表示に泣く

輸出の許可が下りたことにより日本出国は問題がなくなったが、アメリカの税関を通れるかどうかだ。旧盆の連休に突入する8月10日の朝に国際電話が入った。私達をサポートしてくれるMCCフードアメリカの野田支配人からだった。

アメリカでは消費者保護の立場から、食品を販売する場合の栄養表示が4年前から義務づけられているという。その為に、事前にアメリカに10kgを送り検査してもらい、栄養分析をしてもらっていた。販売する前にシールを貼付すればいいと考えていたからだ。しかし、野田さんからの電話では「税関の担当者によつては輸入商品にも栄養表示を要求するらしい。だから「栄養分析のデータをファックスするから、日本でシールを作成して米の袋に貼って欲しい。それと、商品名と重量もポンド表示をする様に」と指示を受けた。

しかし、日本全国はお盆の連休の真っ最中

Nutrition Facts	
Serving Size 1/4 Cup (42g) Uncooked	
Servings Per Container about 24	
Amount Per Serving	
Calories 150	Calories from Fat 0
% Daily Value *	
Total Fat 0g	0%
Saturated Fat 0g 0%	
Sodium 0mg	0%
Total Carbohydrate 32g	11%
Protein 3g	
Thiamine 3%	Niacin 3%
<small>Not a significant source of cholesterol, dietary fiber, sugars, vitamin A, vitamin C, calcium, and iron.</small>	
<small>* Percent of daily values are based on a 2,000 calorie diet.</small>	

右)「ライスボード新潟」の“ジャパニーズライス”海外進出について報じる11月15日付の日本経済新聞夕刊紙。

左) アメリカでの食品販売に義務付けられている栄養表示のシール。このシールを作るために、てんやわんやの騒動となった。



（ライスボードにはお盆の連休はない）。しかも、栄養表示は字体・サイズ・級数が法律で決められていて、簡単にワープロ打ちすれば済む代物ではない。東京・長岡・新潟の印刷屋を100軒以上電話を入れたが、どこも取りあってくれない。17日には米を千葉の乙仲の倉庫に向けて送らなければならぬ。

時差を顧みず、ロスアンジェルス野田さんに電話を入れた。そして、アメリカで12日に印刷業者に持ち込み、13日に日本に向けて送ってもらうことになった。

この電話で「もし、栄養表示のシールが届かず、イペントに米が届かなければ、必ずスーパードと消費者から損害賠償を請求されます。すでに、ロスの地元紙やラジオでスポットのコマーシャルを打っています。謝罪広告と損害賠償は覚悟して下さい」と釘をさされた。この時、アメリカで商売をする厳しさや文化の違いを、背筋が寒くなるくらい感じた。

どこかで事故さえなければ、ギリギリで16日には長岡に届くはずだ。天に祈る気持ちで国際宅急便を待った。

そして栄養表示は16日に無事に届き、こと無きを得た。しかし、この消費者保護に対するアメリカの姿勢は勉強になる。市場で「有機栽培」シールを堂々と売っている国とは違う。アメリカに輸出する重圧と、得られるであろう数々の文化体験が益々楽しみに思えてきた。

●0157で団長倒れる

ライスボードの笛木守社長以下、更級洋子さん、丸山和秀さん、コサカフーズワールドのベンジャミン・カー部長、そして私の5名の渡航予定だった。しかし、8月上旬の厚生省による「0157カイワレ犯人説の発表」で事態は一変した。笛木は有限会社フエキ農園を経営しており、カイワレは新潟県の70%弱のシェアを持っている。春には千葉県にもカイワレ農場を立ち上げたばかりだった。しかも、日本カイワレ協会の理事もしている。

発表当日、笛木は長岡の農場で傘に長グツ姿で農作業をしていた。そこに、フエキ農園の事務員からマスコミが殺到しているとの連絡が入り、訳が分からぬまま塩沢町へ戻っていった。



とよなが・ゆう / 1964年2月東京都生まれ。東京農業大学卒。井関農機(株)に勤務後、94年4月、東京から新潟県見附市に移住。現在、新潟県の稲作経営者が集まって設立した(株)ライスボード新潟(新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100 ☎0258-66-0070)の総務部長として商品企画・販売を担当。

初めはこんな騒ぎ一週間もすれば収まるだろうと高をくくっていた。しかし、状況は悪くなる一方で、お盆に入るころにはアメリカ行きを断念せざるを得なくなった。

昨日(12月2日)、日本カイワレ協会が厚生省を相手取り、損害賠償請求の民事裁判を起こした。笛木は訴訟の担当者として、カイワレの潔白を裁判で争うことになった。長い争いになりそうだが頑張っ欲しい。

●いざアメリカへ打ちいらん

笛木の変わりに専務の長井正樹がピンチヒッターとして加わった。8月27日の出発当日にはNHKとTBSの取材があった。NHK衛星放送では、映像が私達よりも早くアメリカの地を踏んでいた。論評抜きの事実を淡々と流す。TBSは「いくら品質の良い有機栽培コシヒカリを持っていても価格的に販売できるか疑問」と否定的なご意見。ごもつとも、ごもつとも。私達も500kg完売するなんて思ってもいない。ただ、輸入米で「日本農民やられっぱなしでいいのかよ」と大声で叫びたいのだ。コストなんて二の次三の次。売れなくてもいいじやないか。「農家のロマン・男の夢よ」と空元氣は出したものの、胸に不安を抱きながら日付変更線を越すのであった。